# 26［文学］『小説の自由』

　①私は私が思い込んでいるほど固有な存在ではなく、私の中にはのような完結したフレーズや機械とほとんど同等の会話ソフトのようなものが組み込まれ渦巻いている。

　そろそろ思考力が怪しくなった老人の会話を聞いていると、反応が異常に早い。たいていの場合、相手が言葉を言い終わらないうちに「そうなのよ、うちの嫁もこのあいだ……」などと返答し、その話が終わらないうちにもう一方の老人も「だから、若い人の考えてることはもう私たちにはわからないのよ」と応える、というように矢継ぎ早に会話がａオウシュウされているのだが、そこでは老人たちが何十年間と行ってきた会話の型がやりとりされているだけで、中身の吟味はない。

　以前テレビで見たインコは人間の言葉を自在にしゃべって、飼い主のおばあさんときちんと会話できていたのだが、会話とはインコでもできるような楽器のかけあいのようなもので、会話を起源に持つはずの言葉全般も気分や場の空気に乗せてｂクり出される音楽のようなものではないか。

　「次の総理大臣はになってほしいですか？」と街頭インタビューすると、決まって、

　「誰がなっても同じだから」という応えが返ってくる。

　これもまた日本人に組み込まれた会話ソフトであって、②その人は考えて答えたわけではない。

　しかし、「次の総理大臣」なんていうものを、［　　Ａ　　］の言葉を使わずに、［　　Ｂ　　］だけの言葉でどうやって考えることができるだろうか。次元の差こそあれ、人間はすべて他人の言葉をｃソウサすることを「考える」と称している。

　ちょうど届いたばかりの雑誌に、新宮一成がこういうことを書いている。

　無意識は「他者の語らい」として規定される。事実、自己が語ることがらは、③物語化されており、したがってナルシシズムに侵されてしまっているから、信用できるのは他者からくる言葉だけである。ところが他者から来る言葉だけを吐いている人間は、どう見られるだろうか？　自己責任の取れない人、ということになる。どちらにしても自分らしさというものは期待できない。だから、④人格というものがあるとすれば、それは、他者から来た言葉とナルシシズムとの組み合わせ具合として定義されることになる。人格とは、その組み合わせ具合の、その人ごとにもっとも安定したあり方、ということになる。

　ここで「ナルシシズム」の定義が問題になるかもしれないが、私はたんに「私の固有性を信じること」くらいに考えておけばいいのではないかと思う。「自己が語ることがらは、物語化されており」という箇所を読んで、「つまり、物語を語りたいのは人間としてｄヒツゼン的な欲求なのだ。だから、小説には物語（ストーリー）が必要なのだ」と都合よく受け取ってしまう人にはいまここでは言うことはない。何でも自分に都合よく解釈してしまう小泉純一郎タイプの人は案外強固で、そういう人のは簡単にｅクズせるものではない。自己を省みる回路をまったく持たない総理大臣の任期中に、小説史上最高の売り上げを記録したベストセラーが出現したのは何かの符号、という以上に、⑤時代の同じ基盤から生まれた出来事なのではないかと思うのだが、どちらも私にはこれより深く考えようと思うほどには関心がない。

●語注

ソフト＝ソフトウェアのこと。コンピュータなどのために作られたプログラム。

◆漢字　本文中の二重傍線部ａ〜ｅのカタカナを漢字に直せ。

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問１　傍線部①とほぼ同じことを述べている一文を探し、その文の最初の四字を抜き出せ。8点

〔　　　　　　　　〕

問２　傍線部②にある「考えて」とほぼ同じ意味で使われている二字熟語を、傍線部②より前の部分から抜き出せ。7点

〔　　　　　〕

問３　空欄Ａ・Ｂに入る最も適当な語句の組み合わせを次から選べ。7点

ア　Ａ科学　Ｂ素　　　イ　Ａ日常　Ｂ個人

ウ　Ａ個人　Ｂ日常　　エ　Ａ他人　Ｂ自分

オ　Ａ自分　Ｂ他人

〔　　　〕

問４　傍線部③「物語化」とあるが、ここではどういう意味で使われているか。その説明として最も適当なものを次から選べ。8点

ア　自分自身の価値観によって意味づけられ、説明されているということ。

イ　自分自身の価値観によって、非現実の脚色がされてしまうということ。

ウ　自分と他人との価値観が混同されながら、意味づけられているということ。

エ　他人の価値観によって、自分と無関係の意味づけがされているということ。

オ　他人の価値観によって、自分の考えと逆の意味づけがされているということ。

〔　　　〕

問５　傍線部④はどういう意味か、わかりやすく説明せよ。12点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問６　傍線部⑤「時代の同じ基盤」とあるが、ここではどういう意味か。その説明として最も適当なものを次から選べ。8点

ア　自己を省みないことと芸術を愛することとの共通性

イ　自己を省みないことと物語化を好む傾向との共通性

ウ　自己を省みることと他人に無関心な傾向との共通性

エ　自己を省みることと政治への関心との共通性

オ　自己を省みないことと読書を愛する傾向の共通性

〔　　　〕

【解答】

漢字　ａ応酬　ｂ繰（り）　ｃ操作　ｄ必然　ｅ崩（せる）

問１　次元の差

問２　吟味

問３　エ

問４　ア

問５　人格は、他人のものの見方（考え方）と、自分固有のものの見方（考え方）とが組み合わされて成立するということ。

　　　（傍線部の内容がなければ、それぞれ４点減点）

問６　イ

■覚えておきたい語句

□1　固有……………………そのものだけにあること。特有。

□1　常套句…………………決まり文句。

□1　フレーズ………………句。成句。

□6　矢継ぎ早………………物事を続けざまに早く行うこと。

□19　ナルシシズム…………自己陶酔。

□30　符号……………………しるし。記号。

〔要　約〕

　段落関係を考える。

・前半…［1］〜［5］段落

・後半…［6］〜［7］段落

《それぞれの柱の段落をつなげる》

・前半…［5］段落

・後半…［6］・［7］段落

　　　　↓

人間は他人の言葉操作を「考える」と称しているが、新宮一成は人格は他者の言葉・考えとナルシシズムの組み合わせという。総理大臣の性格と小説の売り上げ記録も、そのナルシシズムという時代基盤から生まれている。（100字）

〈筆者＆出典〉保坂和志（ほさか・かずし）一九五六年（昭和31）山梨県生まれ。小説家。一九九〇年『プレーンソング』でデビュー。その後、『草の上の朝食』で野間文芸新人賞、「この人の」で芥川賞、『季節の記憶』で谷崎賞、平林たい子文学賞を受賞。本文は、『小説の自由』（中公文庫、二〇一〇年）より。

【読みのセオリー】

★二項対比に着目する

　評論文の場合、二つの対比的な事項を提示し、それらを比較検討しながら主張を展開するというパターンが多い。それを「二項対比」などという。その場合、何と何が対比されているのかを把握することで、設問がぐっと解きやすくなる。

　その場合、それらを示すキーワードは繰り返し出てくる。ただし若干の言い換えはある。

■読みのセオリー［実践］二項対比に着目する

問３　この文章で対比的に示されていることは、何と何か？

［１　　　　］が語ることがら

　　　⇔

［２　　　　］からくる言葉

〔問い〕

［　　Ａ　　］の言葉を使わずに、

［　　Ｂ　　］だけの言葉でどうやって考えることができるだろうか。

　↓

〔答え〕

次元の差こそあれ、人間はすべて［３　　　　］の言葉をソウサすることを「考える」と称している。

〔解答〕　１自己　２他者　３他人

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊差し替え

問４　傍線部③「物語化」とあるが、ここではどういう意味で使われているか、わかりやすく説明せよ。

　［答］　自分自身の価値観によって意味づけられ説明されているということ。

＊差し替え

問５　傍線部④はどういう意味か。その説明として最も適当なものを次から選べ。

ア　人格は、他人のものの見方を、自分固有のものの見方が支配することによって成立するということ。

イ　人格は、他人のものの見方が、自分固有のものの見方を支配することによって成立するということ。

ウ　人格は、他人のものの見方と、自分固有のものの見方とが戦いあいながら成立するということ。

エ　人格は、他人のものの見方と、自分固有のものの見方とが否定しあいながら成立するということ。

オ　人格は、他人のものの見方と、自分固有のものの見方とが組み合わされて成立するということ。

　［答］　オ